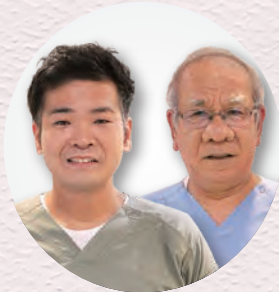


Care & Communication

ケア&コミュニケーション



DOCTOR'S TALK

小児歯科から
ファミリー歯科へ。
親子の連携プレーで
患者の歯を一生守る

医療法人いつき会
よしみファミリー歯科・矯正歯科
理事長／院長

吉見 二郎 先生

前・理事長／院長
吉見 正樹 先生

P01-06



THE FRONT LINE

明確に目標を
積み重ねて開業。
全員が幸せになる
歯科医院を目指す

やすえデンタルクリニック 院長
安江 徹 先生

P07-12



DENTAL REPORT

レーザー療法実践応用講座

歯内療法における
偶発症に対する
Nd:YAGレーザーの応用

文京瀧田歯科医院 院長
瀧田 稔弥 先生

P13-16



INSIDE REPORT

歯科技工士が長く働ける
環境を築き、
次世代に未来を託す
歯科技工所

デンタルラボ匠 代表取締役
西塚 春義 社長

P17-19



カラフルなチェアが並び小児歯科の診療室



小児歯科からファミリー歯科へ。 親子の連携プレーで 患者の歯を一生守る

「よしみファミリー歯科・矯正歯科」は、1979年の開業以来、
小児歯科として地域に溶け込んできた。
吉見二郎理事長／院長が引き継いだ昨年から一般歯科も開始。
これまでの歩みとこれからの展望を伺ってみた。

医療法人いつき会 よしみファミリー歯科・矯正歯科
理事長／院長 吉見 二郎 先生
前・理事長／院長 吉見 正樹 先生



吉見 二郎 理事長／院長 吉見 正樹 前・理事長／院長

40年前に市内でも珍しい 小児歯科専門の歯科医院として誕生

大阪市の住宅地にある「よしみファミリー歯科・矯正歯科（以下、よしみファミリー歯科）」が開業したのは、1979年のこと。吉見二郎院長の父である吉見正樹先生が小児専門の「吉見小児歯科」として開業した。

当時、吉見小児歯科の近くには「鐘紡淀川工場」があり、患者の多くはカネボウ社員やその家族だった。近隣に歯科医院が1軒しかなく、しかも小児歯科を看板に掲げる歯科医院が市内でも他になかったことから、「吉見小児歯科」には大勢の患者が押し寄せたという。

「子どもが好きだったことと、神戸市三宮で開業していた先生に憧れたことから小児歯科を選んだのですが、『虫歯の洪水』とも言われた時代です。患者数は今と比べものにならないほど多く、症状が重かったり、急を要する治療をまずは優先することで、なんとか対応していました」と、正樹先生は当時を振り返る。

「吉見小児歯科」は子どもの治療に徹し、大人の患者から相談があっても他の歯科医院に紹介していた。それから40年経ち、近隣には歯科医院が増え、患者たちも大人になり、その子どもが通院することもあった。

正樹先生も歯科医院の後継を考える年齢になり、昨年、

一般歯科を専門とする二郎先生が理事長／院長に就任。歯科医院名を変更した。矯正歯科の看板も掲げたのは、二郎院長の奥様である美香先生が矯正専門医として携わっているからだ。

「父から受け継いだ子どもの歯を守るという診療方針を大切にしながら、患者さんの対象年齢を広げ、その父母や祖父母まで安心して通える歯科医院にしたいと思っています」（二郎院長）。

院長の継承を機に 院内を全面リニューアル

「よしみファミリー歯科」は、院長の世代交代をきっかけに全面的なリニューアルにも取り組んだ。一番の大きい変化は、床面積を広げたことだ。

歯科医院があるのは、マンションの1階。複数の店舗が長屋スタイルで横並びに入居している。

「ちょうど隣の店舗が空いたので、リニューアルを機にそこも購入して床面積を広げることにしました。玄関を中央に、左右に分かれる構造を利用して、右側は成人向けの一般歯科、左側は小児歯科に診療室を振り分けています。診療室を分けたのは患者さんの快適性を保つことと、小児患者の安全面を考慮してのことです。成人



玄関を入ると左が小児歯科、右が一般歯科に分かれる



天井が高く、温かな雰囲気のを待合室



待合室の正面にあるキッズスペース

向けは個室のほうが患者さんが落ち着きますし、小児歯科は一目で見渡せる構造のほうが安心ですから」と二朗院長は説明してくれた。

玄関を入ると白木を多用し、間接照明が温かな雰囲気の受付と待合室が患者を迎えてくれる。受付カウンターの前には赤ちゃんのためのゆりかごが置かれ、待合室の奥の誰からも目が届く場所に設けられているのは、キッズスペースだ。

子ども向けの診療室は仕切りがなく、カラフルなフラットタイプの小児歯科用チェアが並んでいる。壁面側に設置されているのは、歯磨き指導もしやすそうな大型の洗面台だ。その前には4人掛けのテーブルが置かれている。「診療室にテーブルを置いたのは、カウンセリングスペースとしても使えるようにとの考えからです。子ども

とその親御さんにしっかりと説明し、話し合うことで親子ともに歯への健康意識が向上しますから」と二朗院長は話す。

また、一般歯科のカウンセリングルームは、ドアのガラス窓にロールカーテンが下ろせる構造になっている。こうした設備にしておけば、たとえば授乳が必要になったときなどにも、患者に気兼ねなく使ってもらえるからだ。

一方、大人向けの診療室は個室になっており、白とグレーを基調にシックな雰囲気になっている。

小児歯科に必要な設備や診療しやすい配置に関して正樹先生がアドバイスすることはあったが、リニューアルの設計やデザインは、すべて二朗院長が担当。小児歯科スペースの洗面台の上と、診療室に飾られているイラストのパネルは、二朗院長が探して購入し、飾ったものだという。



小児歯科の診療室の天井にはアニメなどが見られるモニターを設置。
チェアのヘッドレストにはスピーカーを埋め込んでいる



家庭的な造りの小児歯科の歯磨きスペース



小児歯科スペースのテーブル。カウンセリングにも使用

リニューアル後、 訪問歯科にも新しく取り組む

リニューアル後、「よしみファミリー歯科」が新しく掲げたコンセプトは、乳幼児から高齢者まで、患者の歯を一生にわたって守ることだ。子どもの頃から虫歯を作らないように予防管理を徹底し、大人になってからも定期的なメンテナンスで歯を守る。

歯科医院への通院が難しくなる高齢者になってからのサポートも整っている。「よしみファミリー歯科」ではリニューアル後、訪問歯科も診療科目に加えた。現在は、二郎院長が歯科衛生士3人と共に近くの介護施設や患者の自宅を訪問し、義歯の調整や嚥下指導などを行って

いるという。

「幼い頃から父の元へ通院していた患者さんが、成人になり、メンテナンスに来てくれるケースも増えてきました。そうした大人の患者さんずっと診ていきたいのです」（二郎院長）

現在、「よしみファミリー歯科」の1日の患者数は、50～90人ほど。幅があるのは、土曜日など子どもの患者が多い日は外来数も増えるからだ。

「父から受け継いでまだ1年ということもあり、小児と成人の割合は、6対4。子どもの患者のほうが多いですね」（二郎院長）

経営全般で見れば順調なのだが、課題もある。その一つが、患者の予約時間にバラつきがあることだ。子どもの患者の来院数が増えるのは放課後か、週末になる。



一般歯科の診療室はすべて個室に。オペ室には、マイクロスコープも設置



個室はシックな落ち着いた雰囲気



一般歯科スペースのカウンセリングルーム

一方で平日の午前中は、もう少し小児患者が増えて欲しいと思う。

「小児用のチェアに大人の患者さんは座れませんし、その逆も子どもの年齢によっては難しい。チェアの稼働率をもっと上げたいのですが、小児用と成人用の2つのタイプのチェアを設置したため、そうもいかず、どうやって稼働率を上げていくかが、これからの課題です」(二郎院長)

スタッフ教育に力を入れ、 世代を越えて診る歯科医院に

「よしみファミリー 歯科」の変化は、院内スタッフの数にも現れている。患者の年齢層の幅が広がったこと、訪問診療も手がけるようになったことなどから、現在の

スタッフ数は以前の約2倍だ。

現在のスタッフ数は勤務医や歯科衛生士、歯科助手、クリーンスタッフなども含めて17名。受付の一人は保育士の資格も持っている。

「新しいスタッフもいるので、院内教育には力を入れています。とくに重視しているのが歯科衛生士の教育です。患者さんが予防に対して高い意識を持てるかどうかは、歯科衛生士のモチベーションが大きく影響するからです」と二郎院長は話す。

毎月木曜日の午前中は診療を入れず、外部講師を呼んで、予防の必要性を講義したり、SRPの手技をマネキンを使って練習したり、院内セミナーの時間に充てている。また、休日の勉強会も参加費を支援するなど、積極的にサポートしているという。

父の正樹先生と同じように二郎院長も「子どもが大好き」と話す。親子でよく似た、そのやさしい雰囲気の



受付前に置かれたベビーベッドにもなるゆりかご



子ども用椅子を設け、親子が安心して入れるトイレに



CTを完備したレントゲン室

せいだろう。「よしみファミリー 歯科」の院内は明るく、院長とスタッフ、あるいはスタッフ同士の会話には、はつらつとした雰囲気がある。

さぞかし正樹先生と二郎院長は密に連携して診療をしているのではないかと、思いきや、「いえいえ。けっこうケンカもしますよ」と二郎院長は笑った。

「父には40年間、診療を続け、一代でここまでの歯科医院に育てたという自負があります。もちろん、その部分は歯科医師の先輩として尊敬します。ただ、私も新しく挑戦したいことがありますし、とことん追求していこうとすると、父とぶつかることはどうしても避けられません」(二郎院長)

たとえば、小児と成人では歯科材料の種類が違ったりする。二郎院長の治療では必須の材料でも、正樹先生からすると必要性を感じにくかったりする。そうした細かい治療内容の違いが、日々の小さな衝突につながることもある。

そこで、リニューアルを機に正樹先生と二郎院長の治療を完全に分けることで、親子継承の重複期を乗り切ることにした。受付の左右に診療室を作ることができたのも、この方針にうまく合致することになった。

現在は、小児歯科は正樹先生が担当し、一般歯科は二郎院長が治療に当たっているという。

リニューアルのプランを全面的に任せてくれたことなどから、二郎院長も正樹先生の望みはよく分かっている。時間が経過すれば、今のぶつかり合いも減り、「小児歯科」から「ファミリー 歯科」へと新しいスタイルも定着していくだろう。

「ホームページを見て家族全員を診てくれないかと問い合わせるなど、成人歯科のニーズも増えてきています。父が診ていた患者さんの子どもさんなど、2代目、3代目と世代を越えて診ていきたいですし、患者さんと一緒によしみファミリー 歯科・矯正 歯科も成長していけばいいと思っています」(二郎院長)



左から吉見 正樹 先生、吉見 二郎 先生、吉見 美香 先生と、スタッフのみなさん

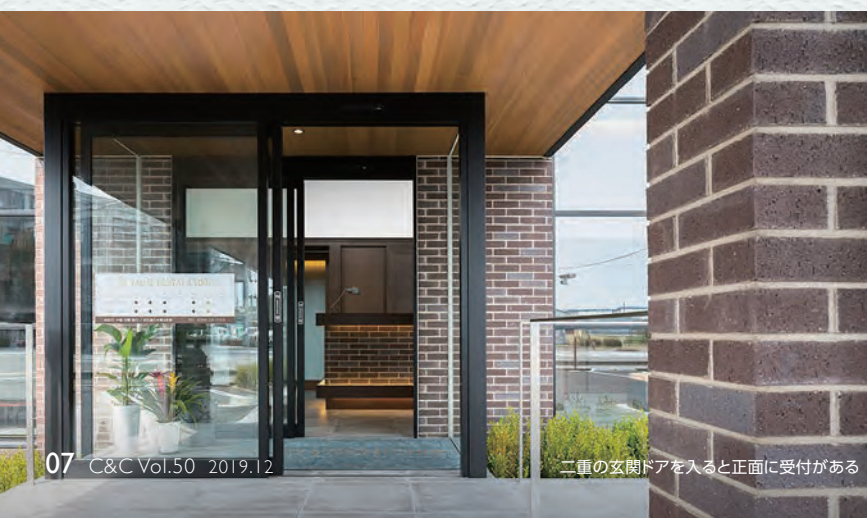
PROFILE

吉見 二郎 先生

●2009年 大阪歯科大学卒業 ●2010年 医療法人 健志会 ミナミ歯科クリニック ●2014年 医療法人 健志会 ミナミデンタルデザインクリニック梅田 院長に就任 ●2018年 医療法人 いつき会 よしみファミリー 歯科・矯正 歯科理事長に就任 ●日本顎咬合学会 噛み合わせ認定医 ●前歯でも噛める入れ歯認定医 ●大阪歯科大学 高齢者歯科学講座 非常勤研修医 ●日本顎咬合学会 日本口腔インプラント学会 日本顕微鏡歯科学会 日本睡眠歯科学会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 日本老年歯科医学会 大阪SJCD 会員

医療法人いつき会
よしみファミリー 歯科・矯正 歯科

住所：大阪市都島区友瀨町2丁目12-21高倉グリーンマンション109
TEL：06-6925-0418 HP：<https://yoshimi-dc.com/>



明確に目標を積み重ねて開業。 全員が幸せになる 歯科医院を目指す

奈良県大和高田市にある「やすえデンタルクリニック」は国道沿いの
広々とした敷地に立つ大型歯科医院だ。
開業から3年経ち、これまでの歩みと今後を伺ってみた。

やすえデンタルクリニック 院長 安江 徹 先生



広々とした敷地に建つ 国道からも目立つ瀟洒な建物

近鉄大阪線の大和高田駅から車で5分ほど走ると、
国道沿いに長いエントランスがひととき目立つ瀟洒な
建物が見えてくる。2016年に開業した「やすえデンタル
クリニック」だ。

玄関から入ると、天井までの大きな窓から明るい日差し
が降り注ぐ広々とした待合室がある。受付カウンターから
奥に入ると、通路に沿って並ぶのは個室タイプの診療室。
開業時は3台だったチェアも、現在は6台まで増えた。

安江徹院長は「やすえデンタルクリニック」を副院長
で奥様の安江真由先生と二人三脚で経営している。
二人がこの地を選んだのは、安江院長の実家にほど近い
場所だったからだ。

「開業場所にはこだわりました。探していたのは、100坪
ほどの建物が建てられるスペースがあり、患者さんが
通いやすく、周囲から目立つ場所です。私も妻も愛知
学院大学歯学部を卒業しているので、愛知や岐阜
まで範囲を広げて探したのですが、なかなか理想の
物件にめぐり逢えず、ようやく見つけたのが今の場所
でした」

現在地の敷地面積は270坪、建坪は60坪だ。駅から
向かう通りからは、ちょうど国道とぶつかる場所の正面
にクリニックの建物が見えてくる。信号のそばにある
ため、国道を通る車からもよく目立つ。歯科医院名が

書かれた看板は建物のデザインと調和し、品がいい。
駐車場も広く、車で通いやすいことがすぐ分かる。さらに
駐車場内には、屋根付きの自転車置き場も用意され
ていた。

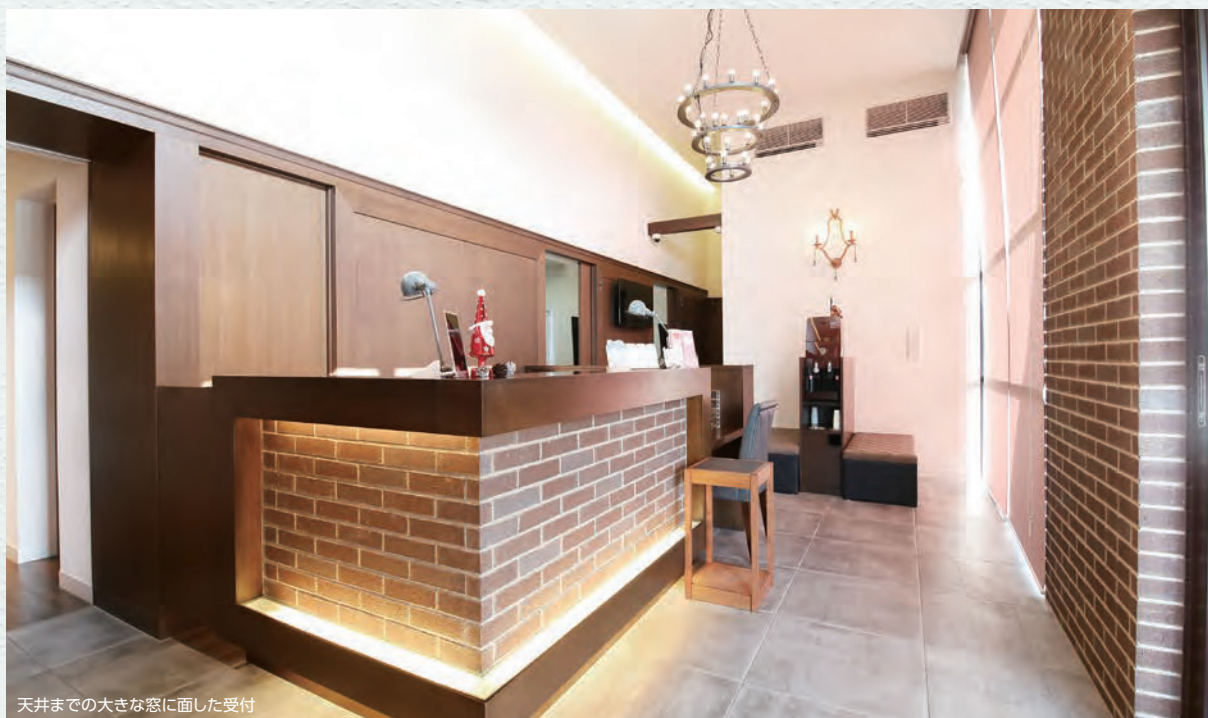
患者の来院数は1日40名前後。年齢層は乳幼児から
高齢者までと幅広い。来院している患者の多くは大和
高田市からだが、安江院長が大阪で勤務医をしていた
ときに担当していた患者も通院しているという。

プランニングの記録ノートで 開業までの道のりを乗り越える

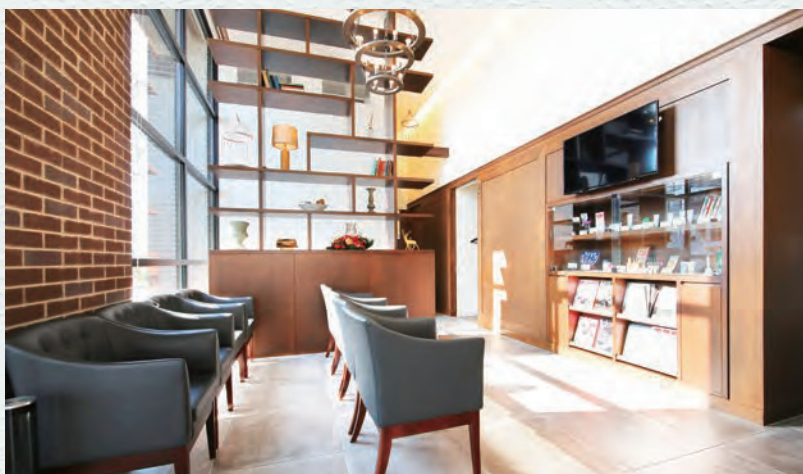
歯科医院が新規開業するまでに、院長は山積みの課
題を解決する必要がある。親や親族に開業医がいれば、
彼らからアドバイスを受けることもできるが、そうでない
場合も多い。安江院長と真由副院長も、先に開業した
先輩や友人の歯科医師の話を参考にしながら、手探り
で開業準備に取り組んだ。

「大学時代から開業することは決めていました。その頃
から続けていたのが、プランニングの記録ノートです。い
つまで何をすべきなのか、開業までの目標と達成するた
めにやらなければならないことを書き出し、その計画に
沿って行動するようにしたのです」

ノートに書き出すと、ぼんやりした開業までの道のりも
明確になる。成功を手にするには、課題をスモール
ステップに分け、実現可能なことを着実に積み上げていく



天井までの大きな窓に面した受付



高級ホテルのラウンジを彷彿とさせる待合室



高い天井を生かし、くつろげるインテリアに

ことが大切と言われている。それを大学時代から取り組んでいたのだ。

安江院長が理想としたのは、家族や友人、自分も含め、信頼し、診てもらいたくなる歯科医院だ。そのために、外観と内装には親しみやすく、入りやすいデザインを意識した。設計のアイデアを考えるときには、学生時代のカフェや雑貨店、居酒屋などでのアルバイト経験が役に立った。客が居心地よく過ごせたり、リピートしたくなる店舗はどのようなデザインとサービスを重視しているかを学ぶことができたからだ。

「開業前は分からないことも多く、夜中の午前1時、2時まで開業コンサルタントの方と打ち合わせしたり、税理士さんに相談したり、やはり大変でした。でも振り返って考えると、文化祭の前夜祭のような雰囲気もあり、

今となっては、楽しい思い出ですね」と安江院長は笑う。

予防重視の診療方針で、 スタッフの働く環境も整える

「やすえデンタルクリニック」は開業前に、近隣住民を呼んでの内覧会を実施。開業後は、新患が1カ月で170人訪れる順調なスタートを切ることになった。ところがほとんどのもつきの間、本番は翌月からだった。

というのも、開業の初月は新患でにぎわうが、翌月からは、どれくらいの患者が継続して通院してくれるかが重要になる。それに加え、翌月以降も新患がコンスタントに増えることが重要だ。



診療室は個室。内装がブラウン系の待合室から一転、白を基調に



シンプルで整理整頓された診療室



チェアには椅子タイプを使用

開業から日が経つと、「どんな歯科医院なのか」と様子見て予約を入れる患者も減ってくる。安江院長は、1日の来院患者数をどうやって安定させるか、頭を悩ませることになった。

「勤務医時代には考えもしなかったことです。これが院長になるということなのか、と思いました。しかし、特効薬はありません。1日の患者数が安定するまでは我慢の時期と考え、日々、焦らず丁寧な診療を心がけました」

安江院長が意識したのは、「やすえデンタルクリニック」が予防を重視する歯科医院であることを患者に丁寧に伝えることだった。補綴物がいくら優れていても、天然歯にはかなわない。外科や矯正も口腔内の歯周病対策ができてこそ、生きてくる。

「そのために歯科衛生士が活躍できる環境づくりに力を入れています。毎年、テーマをきめて勉強会を行っているのですが、山本浩正先生の『PED 歯科衛生士ベリオコース』セミナーもその一つです。去年は咬合をテーマにしました。彼女たちの努力を可視化するために、売上やリコール率を数値化して情報共有するようにもしています」

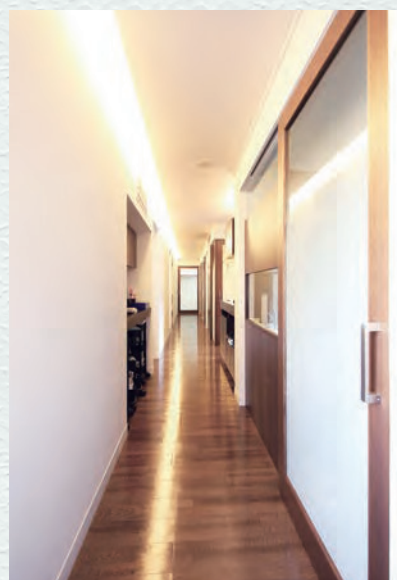
また、「やすえデンタルクリニック」の歯科衛生士はパートタイムの勤務が多い。常勤が2名、パートが4名なのは、主婦業や子育てのため、フルタイムの勤務が難しい場合があるからだ。そんなパート勤務でも、安江院長は有給休暇や産休、パートボーナス等の就業規則と福利厚生を整え、長く働けるように就労環境を整えている。



オペ室にも使用される診療室



待合室と合わせた雰囲気のカウンセリングルーム



間接照明を活用した廊下は温かな雰囲気

また、半年に一度はスタッフと面談し、それを基に人事評価を行っている。開業から2年間は、2週間に一度、面談をしていたという。

「新卒のスタッフも多かったので、何が困っていることはないか、キャッチする機会が必要でした。また、彼女たちの話をよく聞くとともに、私が考える理想の歯科医院像をじっくり伝える時間も欲しかったのです」

この30分の面談に使っている人事評価制度用シートの項目は、安江院長が自作したものだ。最近は面談の間隔が空いていることから、面談後は一人ひとりに手紙を書いて渡しているという。

「面談の間に受けた質問の答えや、伝え足りなかったと感じたことを書いています。口頭で話すよりも、何度も読み返せる手紙にしたほうが、相互理解が深まると思っています」

訪問診療や最新治療にも積極的に取り組む

「やすえデンタルクリニック」がもう一つ、力を入れているのが訪問診療だ。担当しているのは、真由副院長。月曜日から金曜日まで、介護施設やグループホーム、個人宅を訪問している。

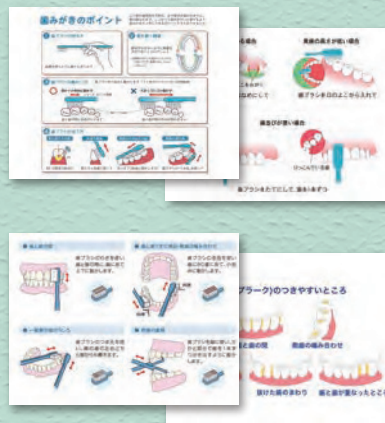
「大和高田市は小規模な歯科医院が多く、うちのように複数の歯科医師のいるところが少なかったんです。そのため、ニーズはあっても訪問診療ができませんでした。私たちの歯科医院ができたことで、訪問診療も可能になったのです」

開業したばかりの頃は市の福祉課からの紹介が多かったが、最近は口コミやホームページ経由での問い合わせ



トイレにはベビーベッドを設置。車椅子でも利用できる

TBI 歯磨き説明スライド



「TBI」は「Tooth Brushing Instruction」の略。個々の患者に適したブラッシング指導を行うことを指す。やすえデンタルクリニックでは専門的なスライドを用いて、歯科衛生士が説明している。

合わせもあるという。

真由副院長は「訪問診療は、家庭を持つ女性、とくに子育て中の歯科医師にとって働きやすいスタイル」と言う。診療時間が決まっていて、昼間のうちに終わることが、その理由だ。緊急を要する治療がなく、予約時間と治療人数が明確な訪問診療は、スケジュールが立てやすい。また、家族も含めて、患者とコミュニケーションが深くなることも、やりがいにつながっているという。「やすえデンタルクリニック」はデジタル機器やITサービスも積極的に活用している。患者数の増加や診療ニーズにスピーディに的確に応えるためだ。

たとえば、「iTero」の導入だ。インビザライン矯正のため、スキャンで精密な歯型を取る方法である。これを使うことにより、精密なマウスピースを従来よりずっと早く作成できるようになった。

またスタッフとの連絡にはLINEを使っている。これは真由副院長がやりとりをしているが、毎週、更新しているブログの内容確認やスタッフへの事務連絡などに使っているという。

開業から3年経ち、「やすえデンタルクリニック」は今、次のステージを目指す段階にある。患者数も安定

してきたが、床面積を考えるとこれ以上、ユニットを増やすにも限界が見えてきた。増築するかどうかを考える必要が出てきている。

「規模を単純に大きくするのではなく、質も重視し、スタッフと一緒に歯科医院全体で成長していきたいと考えています。また、一生、歯科医療の現場に立つプレイヤーでありたいと思っていますし、人材教育もしてみたい。志を同じくする歯科医師とチームを組み、育てていくといったことにもチャレンジしていきたいです」



安江徹院長(前列中央)と真由副院長(前列右)、スタッフのみなさん

PROFILE

安江 徹 先生

- 2008年 愛知学院大学歯学部卒業。愛知学院大学総合診療部に勤務
- 2009年から「ヘルスコープ大阪 生協森の宮歯科」「医療法人LAX かにえ歯科」副院長を務める
- 2016年 やすえデンタルクリニック開業
- 日本歯周病学会
- 藤本研修会
- 大橋矯正コース
- PEC受講
- 大森塾1期生

やすえデンタルクリニック 住所:奈良県大和高田市藤森171-7 TEL:0745-22-1133 HP:<http://yasue-dental.com/>

歯内療法における 偶発症に対する Nd:YAGレーザーの応用



東京・本郷の「文京瀧田歯科医院」の瀧田稔弥院長はすべての治療にマイクロスコープを使用している。「C&C」49号では歯科医院を紹介したが、今号では実際にマイクロスコープを用いて、とくに専門の歯内療法でNd:YAGレーザーをどのように活用しているのか、症例を教えていただいた。



PROFILE

文京瀧田歯科医院 院長 瀧田 稔弥 先生

●2001年 日本大学歯学部卒業 ●2002年 日本大学歯学部付属歯科病院歯内療法科大学院。歯学博士取得 ●2006年 東京都神津村歯科診療室勤務。日本大学歯学部付属歯科病院歯内療法科勤務 ●2008～2013年 東京と埼玉の歯科医院に勤務 ●2010～2012年 ペンシルバニア大学歯学部歯内療法学講座インターナショナルプログラム受講 ●2014年 文京瀧田歯科医院開業 ●日本大学歯学部付属歯科病院歯内療法学 非常勤講師 ●日本歯科保存学会専門医 ●日本臨床歯内療法学会 ●日本歯周病学会

歯内療法を困難ならしめている要因として髓腔のもつ複雑な解剖学的形態に加え、石灰化による根管の狭窄、異所性の石灰化組織などの存在が挙げられる。また、根管治療時には、パーフォレーション、根尖孔の破壊、

ファイルなどの器具破折といった偶発事故が起こりうる。上述解剖学的要因にこのような偶発事故が重なることによって根管治療の難易度はさらに高くなる。

レーザーを用いた破折ファイルの除去

根管内の破折器具すべてが予後不良の原因となるわけではないが、残存した破折器具の先に感染源が存在し除去できない場合は、予後不良となるケースが多い。

これまで破折器具の除去法としてマセランキット、超音波ファイル、バイパス形成、最近ではワイヤーループ法などが提案されてきた。しかしながら、どの方法も一長一短で、ケースを間違えると過剰な歯質の切削による歯質の脆弱化、パーフォレーション、破折器具の根尖孔外への押し出しなどの危険性がある。レーザーによる破折器具の除去については過去に研究報告があるが、当時は400μmのファイバーをマセランキット様のチューブ内で破折ファイルと接合させ、レーザーの高熱によって溶着させる方法であり、

便宜的な根管の拡大の問題は解決されなかった。

破折器具を除去する場合、拡大形成の基準をなるべく超えない範囲で除去できることが望ましい。臨床においては破折器具の除去と歯質の削除量を天秤にかけ、どちらを優先すべきかを考慮しつつ、ファイル除去の目的で過度の歯質削除に至らないよう心がけ、また時には外科的歯内治療も選択の一つとして考えながら治療に当たらなくてはならない。

次に紹介させていただく2症例は、レーザーを用いてファイルの除去を行った症例である。両症例ともに歯質の削除は極力抑え、通常の拡大形成範囲内で行っている。

症例 1

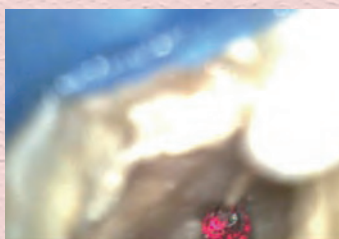
50歳／女性

主訴：噛むと痛い、ときどき何もしていなくても、
ずきずきするとのことで他院より紹介されて来院。

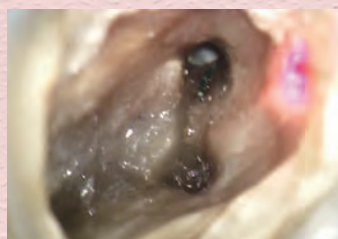
X線写真上では、6に近心根中央部に破折ファイル様の不透過像が認められ、根尖部には透過像が認められる **1**。ラバーダム装着後、根管口の確認および根管口の拡大形成、破折ファイルの明示をゲイツグリデンドリル1、2、3および超音波ファイル(#15)にて行った。その後、レーザーファイバー(200μm)を適切な長さまで伸ばし、80mJ、10Hz(pps)の条件下で3秒照射ごとに注水しながら、ファイル側面に照射を行った **2**。破折ファイル除去後 **3** は、通法どおり拡大形成して根管充填を行った **4**。



1 初診時のX線写真



2 ファイル側面に照射



3 破折ファイル除去後



4 術後

症例 2

52歳／女性

6に咬合・打診痛およびX線上で根尖部透過像と破折ファイル様不透過像が認められた。
7部にはインプラントが埋入されており、専門的な治療が必要とのことで他院より紹介されて来院。

X線写真上では近心根中央部から根尖部に破折ファイル様の不透過像が認められ、近遠心根尖部には透過像が認められる **5**。
6に近心傾側根管口から中央部までの拡大形成を行い、破折ファイル上部を明示 **6**。破折ファイル側面に斜めにファイバーが当たるよう注意しながら、80~100mJ、10Hz(pps)の出力で、

症例1同様に照射を行った **7** **8**。

破折ファイル除去後、通法どおり拡大形成して根管充填を行った **9** **10**。

術後1ヵ月、最終補綴物装着時の透過像は縮小傾向にある **11**。



5 初診時のX線写真



6 破折ファイルを明示



7 ファイル側面に照射



8



9 拡大形成



10 根管充填



11 術後1ヵ月

根尖孔外ガッタパーチャ(GP)除去、搔爬

根尖孔外感染は約30年前にTranstadらにより考察された。それが再評価されるに至ったのはバイオフィームという概念が歯科に導入された2000年頃である。その後、この分野の学問は素晴らしい発展を遂げ、現在では難治性根尖性歯周炎のなかに根尖孔外感染が一定数含まれているのはエビデンスとして確立されている。

根尖孔外感染と一口にいってもその感染部位はさまざまで、肉芽種内、根尖周囲セメント質、根尖孔外に逸脱したGPなどの根管充填材の表面などがある。臨床において過剰に根管充填されて難治性根尖性歯周炎となり、予後不良で抜歯に至った抜去歯の電子顕微鏡による形態学的観察に

おいては、80%以上でGP表面上にバイオフィーム形成が認められたとの報告もある。

日常臨床においても過剰に根管充填された歯の根管治療は、難易度が高く難治性であることが多い。もちろん過剰根管充填材の除去も困難だが、このようなケースはさまざまな理由で根尖孔が破壊された、もしくはもともと根尖孔が閉ざされていない(慢性炎症による歯根吸収、オーバートリートメント、根尖部未完成の段階での抜髄)場合が多い。根尖孔の太さと予後の可否には相関関係があるとの報告も踏まえたうえで治療にあたりたい。次にNd:YAGレーザーを用いた、根尖孔外GP除去、搔爬の症例を紹介する。

症例 3

56歳／女性

主訴：左上奥歯の歯茎が腫れ、血が出る。

根の治療を続けているが、なかなか治らないとのことである。来院。[6]には仮封材が入っており、[7]にはクラウンが装着されていた。[7]近心根付近にサイナストラクトが認められた[12]。両歯ともに打診・咬合痛(+)。[7]遠心は歯周ポケット5mmでそれ以外はすべて正常範囲内であった。X線写真上で両歯の根尖孔外には過剰な根管充填材と思われる不透過像がすべての根尖部に認められた[13]。

GPをサイナストラクトより挿入し、X線写真撮影にて[7]の近心根に到達することが確認された[14]。

両歯同時に治療を進め、通法どおりクラウンダウンにて根管

拡大形成を行い、根管内の問題がなくなったのち根尖部の精査に至った([6]のMB2以外)。根尖孔はすべての根管で破壊されており、#50のKファイルが容易に穿通する太さであった。ファイバーが根尖孔外に抵抗なくスムーズに出し入れできることを確認したのち、80mJ、10Hz(pps)の出力で3～5秒照射ごとに、生理食塩水にて洗浄、冷却を繰り返し、根尖孔外のGPを除去した[15][16]。根管からの出血排膿が治まったことを確認したのち、MTAにて根管充填を行った[17]。[7]はまだ症状(咬合・打診痛)があるため、水酸化カルシウム製剤にて貼薬中である。



12 [7]近心根付近にサイナストラクトを認めた



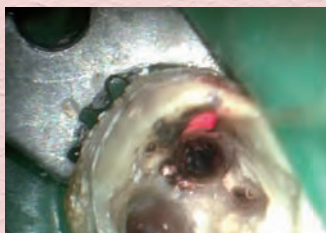
13 同、X線写真



14 GPを挿入



15 照射と洗浄、冷却を繰り返す



16



17 MTAで根管充填

症例 4

27歳／女性

主訴：上の前歯の歯茎が腫れている。

11 2 根尖相当部にサイナストラクトが認められた 18。X線写真上では同部位の根尖に小豆大の透過像が認められた 19。咬合・打診痛ともに(+)で、歯周ポケットは正常範囲内であった。

コア除去後、上記のように拡大形成を行い根尖部の精査に至る。根尖孔の太さはともに#40以上でファイバーは

根尖孔外にスムーズに到達。GP除去を含め、搔爬をレーザーを用いて行った(80mJ、10Hz(pps)) 20 21。根管内への出血が治まったことを確認し、インターナルマトリックス法にて根尖孔外を処置した後 22、1回法でMTAにて根管充填を行った 23。

術後6か月、透過像は完全に消退している 24。



18 11 2 根尖相当部にサイナストラクトを認める



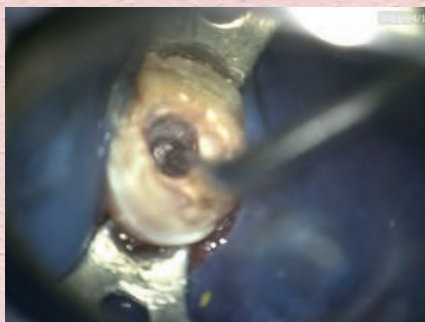
19 同、X線写真



20 GP除去および搔爬



21



22 インターナルマトリックス法にて根尖孔外を処置



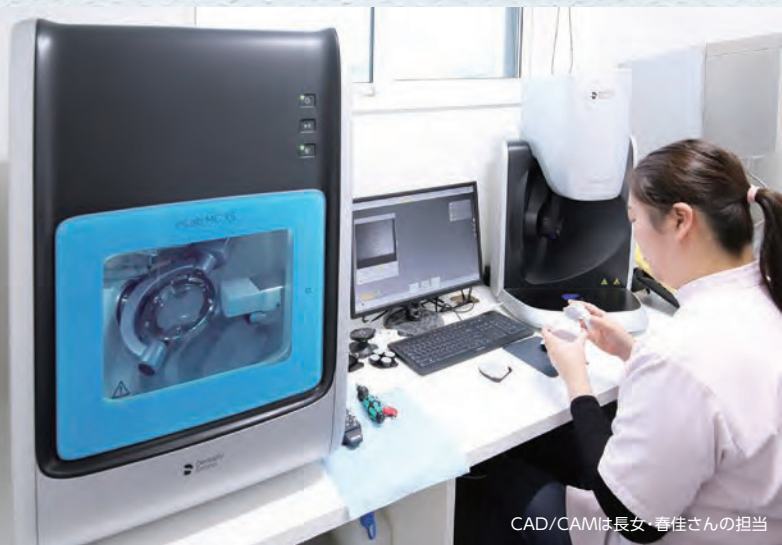
23 根管充填後



24 術後6か月

本レーザーが通常の根管治療における拡大形成、根管洗浄、消毒においても有効であることは前項に記載されているとおりである。今回紹介させていただいた症例は、偶発症により難易度が高くなった症例に対して、レーザーの特性を

活用することによって侵襲度の低い根管治療を行うことが可能となったケースである。複雑な根管系に対して治療学上の原理原則を踏まえたうえで、レーザーのもつ特性を応用することが問題解決の一助となると考えられる。



CAD/CAMは長女・春佳さんの担当



グレーの2階建て一棟すべてがラボスペース



デンチャー部屋の隣にあるクラウン修復の部屋

歯科技工士が長く働ける 環境を築き、次世代に未来を 託す歯科技工所

青森県青森市にある「デンタルラボ匠」は、スタッフ8名を抱える歯科技工所だ。今年5月に床面積を拡大した技工所を新築した。開業からの歩み、これからの歯科技工について伺ってみた。



デンタルラボ匠 代表取締役 西塚 春義 社長

CAD/CAMを導入した 新しい歯科技工所を建設

「デンタルラボ匠」の西塚春義社長が独立し、歯科技工所を立ち上げたのは1980年のこと。28歳のとき、青森市内の自宅の一部を技工スペースにしてのスタートだった。当時の名前は「西塚歯科技工所」。今年の移転新築を機に「デンタルラボ匠」に改称した。

西塚社長が歯科技工士を目指したのは、子どもの頃から周囲に高齢者が多く、入れ歯を見る機会が多かったからだ。モノづくりが得意だった西塚社長は、手先の器用さを生かせる歯科技工士の存在を知り、高校卒業後、福島県の歯科技工専門学校に進学した。

「学校での勉強は楽しかったです。あの頃は学生の年齢にも幅があり、28歳の同級生もいました。先生にもかわいがられ、人とのつきあい方など、社会に出たときに役立つ大切なことを教えてもらいました」

卒業後は金属床の最新技術を学ぶため、東京の三金工業（現デンツプライシロナ）に1年間勤務。その後、青森に戻り、歯科技工所に6年、歯科医院の院内ラボに2年半勤務したのちに独立した。

「現在地に移転したのは、14年前です。その頃は、一軒隣にある2階建てが技工所でした。そこも狭くなってきたことと、CAD/CAMを入れて設備を充実させたいと考えたことが、移転新築に踏み切るきっかけになりました」

歯科技工は心でするもの。 人脈で仕事を広げる

西塚社長は現在、68歳。長女の春佳さんが後継者として5年前から共に働いているとはいえ、60歳を過ぎてからの移転新築は、勇気が必要だったのではないだろうか。将来をどう考えているのだろう。

「じつは私、営業をしたことがないのです。開業時から口コミや紹介で得意先を増やしてきました」

西塚社長は「歯科技工は心でするもの」をモットーにしている。技工物がいつもスムーズに完成するとは限らない。歯科医師とのコミュニケーション不足から仕上がりにズレができてしまったり、製作日数の繰り上げを迫られることもある。しかし、それらのトラブルも西塚社長は懐深く受け止め、歯科医師の希望をかなえるように努力している。理由は歯科医師を支え、その先にいる患者を一番に考えることが、歯科技工士の使命との思いがあるからだ。

そんな明るく温厚な西塚社長の人柄は、交際範囲の広さにも現れている。趣味のゴルフと野球、ボーリングなどを通じて西塚社長には地元で多数の友人がいる。その友人を通して思いがけなく仕事の依頼が舞い込むこともある。こうした人脈の広さがあるからこそ、新しい歯科技工所の建設にも踏み切ることができたのだ。

「目先のことにとらわれず、損して得とれ、です。歯科医師の先生方と相互理解を深めながら、長くおつきあいしていくことが大切だと思います」



デンチャー部屋の一角。
この机の対面に西塚社長たちが作業する机が並ぶ



広々とした技工の作業スペース



硬質レジンの作業室

歯科技工士の仲間とともに 公私ともに充実した人生を

新しい歯科技工所で一番広く、西塚社長の作業机もあるのが、デンチャー部門の部屋だ。

その隣には、作業台やシンク、材料の保管を兼ねた広々としたスペースがある。奥に向かうと、クラウン修復の部屋があり、さらに研磨室、CAD/CAM室、メタルボンド室、硬質レジン室が設けられている。新築と同時に導入したCAD/CAMの担当は、春佳さんだ。

「デンタルラボ匠」が手がけている主な技工物は、クラウンブリッジと保険の義歯だ。保険と自費は、およそ7対3の割合という。

現在、デンチャー部門は西塚社長が、補綴部門は春佳さんがリーダーだ。歯科技工士の労働時間は長くなりやすいが、「デンタルラボ匠」ではできるだけ残業は避けるようにスケジュールを組んでいる。

春佳さんは長年、西塚社長の仕事を間近に見て育ったことから、父と同じ道を選んだ。東京医科歯科大学附属歯科技工士学校を卒業後、東京で勤務していたが、7年前に母の死をきっかけに故郷に戻ってきた。西塚社長は、「跡継ぎができたことはうれしかったが、娘の人生を変えてしまったことを申し訳なく思うこともある」と話す。

しかし、その西塚社長の言葉を横で聞いていた春佳さん

の表情は明るかった。女性でも歯科技工の技術を持っていれば、働き続けることができる。

「父の志を受け継ぎながら、今、一緒に働いているスタッフとこれから仕事を続けていければと思っています」と春佳さんは語ってくれた。

同じ職場に父娘がいると、やりにくいことはないのだろうか。そうたずねると、西塚社長は「あまり馴れ馴れしくしないように気をつけている」と答えた。上司と部下の関係を意識して守っているのだろう。

「歯科技工士には室内でコツコツ作業するため、暗いイメージがありますが、私はむしろアウトドア派。休日には山歩きをしたり、スポーツを楽しんでいます。スタッフとも、よく遊びに行くんですよ。これからの歯科技工士はチームで仕事をするスタイルが必要だと思います。若い世代の歯科技工士には、一人で抱え込まず、仲間と助け合いながら、公私ともに充実した人生を送って欲しいですね」



西塚社長（前列左から2番目）と長女・春佳さん（前列左）、スタッフのみなさん

PROFILE

西塚 春義 代表取締役

- 1972年 東北歯科総合専門学校卒業。三金工業（現デンツプライシロナ）に入社 ●1973年 青森に戻り、歯科技工所に勤務
- 1980年 西塚歯科技工所設立 ●2005年 現在地に移転 ●2019年 移転新築し、名称をデンタルラボ匠に改称

デンタルラボ匠

住所：青森県青森市大字新城字山田117 TEL：017-787-0818



SASAKI Care & Communication Vol.50 December 2019 お問い合わせ・ご意見：『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

発行：ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。